

東京高齢協 ニュース

2024年春号 NO. 199

URL www.t-koureikyou.or.jp
E-mail info@t-koureikyou.or.jp

Pick Up

- 令和6年度介護保険報酬改正
- 新人紹介
- わたしの一押し桜の名所



理事長 庭野 吉也

風が心地よい麗らかな季節になりました。遠出せずとも、身近な場所を散策するだけで和やかな気分になります。4月は官公庁や多くの企業、学校などが新年度を迎える節目の季節です。年度が切り替わることで事業や活動に一区切りがついて社会全体が新たな雰囲気にも包まれているようにも感じます。

一方で私たち東京高齢協の「事業年度」は、毎年10月1日から翌年9月30日までの1年間としていますので、この時期はちょうど年度の半分が終了した折り返し地点に立っていることとなります。年度上期の事業の進捗状況、到達点を確認し、残された期間で年間予算を達成するための方策と行動計画を検討しなければならない時期に当たります。従いまして、法人としては、世の中の年度替わりといった気分とは異なる感覚があります。

さて、今期が新たな中期計画(第27~29期計画)を策定する年度であることは1月発行の高齢協ニュースでも述べた通りです。この策定論議を進めるに当たって、今回の紙面で三つほどの論点について触れておきたいと思います。

一つ目は、中期計画とはいったい何かということと一緒に考えたいということです。中期計画とは、向こう3カ年で私たち東京高齢協が“目指すべき姿、ありたい姿”を描き、その実現に向けた行動計画を立てることです。また、この計画を進めていく主体はとりもなおさず私たち役職員です。ただし、生活協同組合である東京高齢協は、役職員のための組織ではありません。生協はその事業を利用してくださる組合員、地域住民の暮らしを豊かにすることが目的であり、そうした地域の方々の暮らしにどれだけ貢献しているかを仕事の価値基準にしなければなりません。従って、中期計画における“ありたい姿”とは、そうした地域ニーズに応え得る姿であるといってもよいと思います。まずこの姿をしっかりと確立したいと考えています。

二つ目は、盤石な事業構造をどう確立するかということです。東京高齢協が地域の福祉と暮らしに貢献できる組織となるためには、持続可能な経営体質を作り上げていくことが絶対条件です。しかし、私たちの事業の中核となっている介護事業、とりわけ訪問介護は人材不足が極めて深刻な状況にあります。事業は担う人材がいなければ事業継続はおぼつかないものとなってしまいます。一方で地域では高齢化の進行によって、在宅での支援がますます重要になっていきます。この相反した現状に立つ介護分野で、安心して利用していただける事業基盤を作るには、組織を挙げて経営効率を高めていかなければなりません。それぞれの事業所ごとの垣根を越えた集団的議論が必要であると思います。

三つ目は、今後の法人運営をどう進めるかということです。昨年11月から指定管理受託施設が7カ所から9カ所に増えています。受託施設が増えたことで、私たちが関わる地域も広がり、それだけ社会的責任も大きくなっています。そして、その責任の重さに応えられる運営とマネジメントが求められてきています。今後も引き続き受託施設の拡大を展望するならば、地域ごとに異なるニーズや特性に対応する施設運営を円滑に進めるための管理・運営の在り方が転換期を迎えているように感じています。つまり事業執行における権限委譲・分権の在り方が大きなテーマになってくると考えます。

東京高齢協のこれからを考える議論に、職員の皆さんが主体的に、そして積極的に関わってくれることを切望してやみません。

令和6年度介護報酬改定について

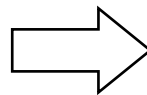
介護保険報酬は、3年ごとに見直されます。令和6年度の訪問介護の報酬は、基本報酬が2.2%減額となりました。その理由は、他の介護事業と比べて利益率が高かったからです。訪問介護事業所全体の平均利益率は7.8%で、全22業態の平均利益率は2.4%でした。ところが2022年度、訪問介護事業所のうち36.7%が赤字経営で、倒産件数は過去最大となっています。

どうしてこのような判断がされたのでしょうか？実は、大規模事業所やサービス付高齢者住宅などが収益をあげているため平均値が高くなったからです。

東京高齢協の訪問介護事業所も小規模ですが、地域の高齢者福祉の重要な担い手として頑張っています。慢性化したヘルパー不足、スタッフの高齢化など解決が難しい課題を抱えながら利用者のみなさんへサービスを提供しています。

このような中、少しでも多くの介護報酬を得られるように、6月から「新加算Ⅰ」を取得することにしました。介護報酬は、表のように基本報酬の上に加算が上乘せされています。基本報酬の減額分を補うためにも現在の3加算を一本化した「新加算Ⅰ」を取得する必要があります。加算は直接職員の賃金に反映されます。法人としてはできるだけ一番率の高い加算を取得し、賃金改善に取り組んでいきます。

令和6年5月まで	加算率
処遇改善加算Ⅰ	20.3%
特定処遇改善加算Ⅱ	
ベースアップ等加算	
基本報酬	基本報酬の 10%増
特定事業所加算Ⅱ	
令和6年4月から 2.2%減	



令和6年6月から	加算率
新加算Ⅰ	24.5%



翔んで おおやまファッションショー

前日の雨が嘘のように快晴となった1月22日（月）。板橋区立文化会館にて“東京高齢協・NPO 法人 東京まんまる主催、第1回「翔んで おおやまファッションショー」が開催されました。

一般の出演者のエントリーを昨年末より募りました。第1回目ということもあり応募者は伸び悩みましたが、9名の方々にご自慢のファッションを披露していただきました。

リハーサルで“いよよ華やぐ倶楽部”の本多副理事から指導を受け、準備万端で本番を迎えました。オープニングではサプライズで「となりのトトロ」の猫バスに扮した新宿地域交流館の大山館長とめいちゃん登場。衣装はアナウンスを担当された方の手作りで、猫バスのたくさんある足やめいちゃんが持っているトウモロコシ一粒一粒も全て自作されたというから驚きです。

ファッションショーは出演者ごとに曲が設定され、曲調によっては軽やかなステップを踏みながら登場される方も。ランウェイを颯爽と歩きお披露目スペースに到着すると、それぞれのファッションのポイントやこだわりがアナウンスされ思い思いにポージング。その場が一気に華やきました。モデルは今回が2回目となる庭野理事長は、黒の縮緬から製作したロングコートを着て颯爽と登場。背中には今年の干支「龍」のアップリケが、貫録とオシャレ感を演出していました。

フィナーレは全員でランウェイを歩いてお披露目スペースに並び、素敵な笑顔と拍手の中無事終了となりました。（加藤剛史）



新人紹介

- ・「皆さんに楽しんでいただくことをモットーに仕事をするのが私の役目だと考えています。そして安全に過ごせて安心感を感じてもらえる、そんな職場作りにつながっていきたくです。」(日下)
- ・「利用者の方達と体操・手作業などを通じて一緒に楽しみながら働きたいと思います。」(大島)
- ・「両親の介護が終わり、「ふじみ」に復職しました。通われる利用者様・職員の皆様との関わりを自分の宝物にしていきたくと思います。」(中村)
- ・「以前からデイサービスで働いていたのですが、これまでは入浴におわれ、レクはおざなりになっていました。ふじみはレクのレベルが高いので、レク好きの私にとってはとてもうれしいです。これからもレクのレパートリーをさらに広げていきたくと思います。」(寺本)



東京高齢協ふじみ

昨年8月15日に入社しました伊藤直美と申します。以前の職場は座っている事の多い事務だったのですが、今回はてきぱきと動く体力も必要であるし、徐々に新しい仕事を一から覚えることに四苦八苦しながら、気が付けば半年が過ぎました。体操講座で一緒に体を動かしたり、映画サロンで白黒映画を上映したり、初めてのことが多く面白さと新鮮さを感じています。

趣味は、ここ10年程は韓流ドラマの沼にはまっていて、最新の話作はかかさず鑑賞しています。



神社巡りや街散策も好きで、今は東京十社巡りをしていて、根津神社を訪れて谷中銀座商店街で食べ歩きをしたり、下町風情の漂う街の散策が楽しくなってきました。皆さまどうぞよろしくお願い致します。

練馬高野台敬老館 伊藤直美

令和5年11月に入協しました新宿地域交流館副館長の道上和彦と申します。

着任してから早いもので5ヶ月が経ちましたが、日々新しい発見があり、楽しく仕事をさせて頂いております。

趣味は、テニス、車、オーディオです。テニスは友人と毎週土曜日に4時間程度ゆったりとやっています。車はスバルのツーリングワゴンで、気持ちよく走ることを求めてドライブを楽しんでいます。特に今、力を入れているのが再開したオーディオです。40年前に購入したステレオ機器を中心に実在感のある音を求めて奮闘しております。

仕事の目標としていることは「館の利用者の皆様と楽しい時間を共有できること」で、今後もいろいろなことに取り組んでいきたくと思っております。

新宿地域交流館 道上和彦



皆様 初めましてこのたび「大崎ゆうゆうプラザ」に、勤務させていただくことになりました、河原稔子(かわはら としこ)と申します。

NHKの番組のチコちゃんに倣って、永遠の20歳という気持ちで元気に楽しく新たにお仕事をさせていただくことに、ワクワクしています。

大崎ゆうゆうプラザで、開催されるイベントは高齢者の方を中心に多世代が交流できるプログラムもあり、皆様の交流の場としてまさに地域に根付いた素晴らしい取り組みをされているのだと、感じております。そんな中で、皆様のお時間をより豊かなものにするお手伝いができるように、そっと寄り添う気持ちで、おひとりおひとりに、丁寧に接していくことを目標にしています。なれない日々ですが、先輩のみなさまのご支援をいただきながら、働いてまいります。宜しくお願いいたします。

大崎ゆうゆうプラザ 河原稔子



わたしの一押し桜の名所①

私の家は町田市にあります。町田で有名な桜の名所は恩田川沿いの桜並木です。春、桜の季節にはお祭りが行われるくらい賑わいます。その他でも芹が谷公園、薬師池公園、尾根街道など町田は東京でも桜の名所は多い所だと思いますが、私にとっての桜の名所は家の近所です。愛犬と共に毎日お散歩しながら、春には桜、夏には蝉の声、秋には紅葉、冬は冷たい北風等、家の近所で四季を感じながら歩きました。その愛犬も去年の秋に19歳で亡くなり、去年の4月の桜の頃はお散歩できない状態でした。抱っこして家の近所の桜を見ながら、「もしかしたら最後の桜になるかも」と思ったのを覚えています。

近所の桜と愛犬と一緒に写っている写真も若くて元気だった頃からのも含め、たくさんあります。桜とリンクする思い出の中にはきっと誰でも何か一つくらい、心に切なく響くものがあるのではないのでしょうか？

愛犬も今は天国で楽しく走り回り、今年の桜も私の心の中から一緒に楽しんでくれると思います。

私にとっての桜の名所は家の近所の『桜』、毎日の生活の中で季節を感じ、小さな幸せを思い出させてくれる『桜』です。



町田地域センター 得田陽子

わたしの一押しの桜の名所は、「六義園」です。

ここ数十年間、以前の職場の人とお花見をする毎年恒例の場所となっています。

「六義園」は、柳澤吉保が1702年に築園した大名庭園です。ちなみに現在は「りくぎえん」と呼ばれていますが、作られた当初は、日本風に「むくさのその」と呼ばれていたそうです。

六義園の前にランチで美味しいものを食べ、お喋りに花を咲かせます。そのあと、枝垂桜を見て園内をゆっくり散策し、お茶屋で休憩します。

このコースがとても心地よく、私にとっての幸せなひとときです。桜を見ながら、美味しいものを食べて、お喋りをして、毎年楽しい時間を過ごせる六義園は、おすすめの桜の名所です。



高野台敬老館 斉藤祐子

「青い空」の近くの押し桜を紹介します。まず一つは世田谷通りの東京農業大学から祖師谷大蔵に行く千歳通りの約1kmにわたる桜並木が桜のスポットとしても有名です。もう一つは田園都市線桜新町駅の商店街にある八重桜です。八重桜は一般的な桜より1週間から10日後に咲くのが特徴で、花びらが何枚にも重なって咲くことから八重桜と言います。また別名牡丹桜とも言います。

八重桜が咲く商店街も珍しく4月には桜祭りも開かれます。プチ情報ですが桜新町駅から2分ぐらいの場所に桜神宮があり、その桜もきれいです。また御朱印がかわいいことが有名です。期間限定とか種類がいろいろあるそうです。

興味のある方はぜひ行って見て下さい。



東京高齢協世田谷訪問介護青い空 沼田久美子

桜といえば「ソメイヨシノ」が有名ですが、新宿御苑はソメイヨシノの季節以外にもいろいろな桜花を見ることができます。新宿御苑でみられる桜を紹介します。

「ヨウコウ」はソメイヨシノと比較してピンクが濃いのが特長です。「ウコン」はカレーに原料使用するウコン（ターメリック）を名前の由来しており、黄色い桜です。

「御衣黄」は、八重桜で、咲き始めは緑で、その後花の芯が赤みを帯びてくる桜です。「ジュウガツザクラ」は八重咲の桜で名前の通り、10月から翌年1月までちらほら咲く小さい桜です。その他にも、赤い色の「寒緋桜」、「イチヨウ」、「カンザン」「オオシマザクラ」などの桜を見ることが出来ます。新宿御苑はお勧めです。



高田馬場シニア活動館 古平 篤

事務所のある国立市には、「桜通り」と言う、歩行者専用道路を併設した大きな道路に左右ビッチリと楽しませてくれます。そして、国立駅の名所である三角屋根の駅舎から真っすぐに一橋大学を挟み込み「桜通り」とクロスする形でもう一つ「大学通り」。保存の為、今は敷物を敷いての飲食は禁止ですが各所に寄贈されたベンチがあり各々に見上げる風景が見られます。もちろんライトアップもされています。



「私の一押し」は「下り線ホームからの大学通り」です。撮影スポットですので是非、順番に並んではいかがですか？そして散り際には車で2回程往復すれば、花びらで見事にお化粧した愛車が誕生しますよ。

東京高齢協国立ふぁみり〜・さぼ〜と 大橋正三

桜の季節到来です！桜の名所は沢山ありますが、気軽に行かれる私のお気に入りスポットをご紹介します。

三越前駅を中心とした日本橋エリアにある「江戸桜通り」です。三越本店をはじめ、石造りの歴史的建造物を背景に咲き並ぶソメイヨシノはとてもモダンで、街の中で愛でる桜の中では一押しです。毎年開催されるイベントでは、日本橋の老舗や各店から「桜」や「春」をテーマにした春限定のメニューやグッズが販売され、私の楽しみの一つになっています。

期間中は、街路灯フラッグやお店の暖簾がピンク色になり、夜は通り一体がピンク色にライトアップされ日本橋が桜色に染まります。

「桜」を理由に、心躍る街歩き・食べ歩きを今年も楽しみたいと思います。



信濃町シニア活動館 中村 陽子

3月の声を聞くと「今年のソメイヨシノの開花はいつになるのか」ということが話題になります。地球温暖化の影響で年々開花日が早くなり、今年の東京の開花予想は3月24日だそうです。都内では上野恩賜公園、目黒川、千鳥ヶ淵が有名ですが、私の地元・板橋区にもたくさん名所があります。

まず有名なのは石神井川の桜並木です。東武東上線の中板橋駅付近から加賀付近まで1000本のソメイヨシノが咲き誇り、ヤマザクラ・オオシマザクラを楽しむことが出来ます。



ちなみに石神井川沿いに1本だけ河津桜があり、2月下旬には見ごろを迎え、区民を楽しませてくれました。

「板橋十景」のひとつ、桜川にも1000本を超える桜が咲き、“桜川”の地名の由来にもなりました。3月下旬には各地で桜祭りが開催されます。お近くにお越しの際にはぜひ板橋区の桜を楽しんでください。

東京高齢協ふじみ 勝部京子



わたしの一押し桜の名所②



東村山東口駅前からの桜通りは高校の時から通いなれた道です。1Km 以上左右の歩道に桜が植わっている地元の桜の名所です。桜の季節は花のトンネルになり、その時期は車に乗り速度を落としてトトロト走りまわります。信号が赤になったらラッキー。花のトンネルのど真ん中で贅沢な風景が楽しめます。信号手前に広場があり古く大きな桜があります。そこで、晴れて青空が広がる朝、少し冷えた凜とした空気の中、登ったばかりの朝陽に八分咲きの桜が照らされる風景に出会ったときは、目をうばわれ一瞬が止まったように思います。一年で一度出会えるかどうかかわからない瞬間です。

行かなければと思っているのは、埼玉県比企郡の秩父に抜ける峠の手前、坂東三十三観音九番札所、都幾山 慈光寺のハイキングコースのような長い参道の桜で、コロナ禍の秋に訪ねたおり、住職に、春は桜が見事なので見に来なさいとさそわれ、来ますと約束したのに守れていないので。

上落合地域交流館 天野岳章



私の一押しの桜は都立戸山公園内の新宿スポーツセンター前にある 2 本の桜です。

この 2 本の桜は、平成 13 年に長野県旧高遠町の当時の町長から、新宿区と友好提携記念に送られたタカトオコヒガンサクラです。大きくて迫力があり、凄く綺麗なピンク色です。是非一度見て頂きたい桜です。

尚、現在は戸山公園の明治通り側の入り口は、工事の為に閉鎖中ですのでご注意ください。



【豆知識】

新宿区と長野県旧高遠町との縁は江戸時代に遡り、現在の新宿御苑一帯が高遠藩主内藤家の下屋敷であり、その一部が新しい宿場「内藤新宿」となった関係から相互交流によって友好を深め、昭和 61 年 7 月 12 日に友好提携を宣言しました。

※写真は 3 月 23 日（土）午後 3 時に犬の散歩途中で撮影しました。月末あたりが見頃でしょうか??

早稲田南町地域交流館 加藤玄一

皆さん、早いものでもう 4 月ですね。

今年は正月早々に「能登地震」と「飛行機事故」という大きなニュースが 2 つも続きました。そんな中で、あっという間に「梅」の季節が過ぎて「桜」の季節になろうとしています。「地球温暖化」と言われて久しいですが、桜の季節も例に漏れず年々開花時期が早くなり、3 月に満開になって入学の頃には葉桜ということも珍しくありません。

さて、そんな桜の時期には皆さんお楽しみの「お花見」ですね。私は上京してからは花見をしながらの宴会はやったことがありませんが、今回は、私の地元の練馬でお勧めの桜スポットをご紹介します。それは、西武池袋線の練馬高野台駅近くの「石神井川沿いの桜」です。満開の時には川が見えなくなるほどに桜で覆われる景色が私のお気に入りです。

ぜひ一度ご覧になってみてください。



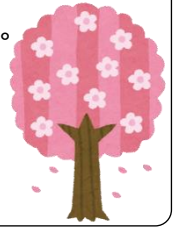
新宿地域交流館 大山拓也

勤務先である品川区の大崎には桜の名所と謳われる目黒川が流れています。この辺りは再開発地区で遊歩道もきれいに整備され「さくらテラス」と呼ばれるイベントスペースもあります。川幅も広くゆったりとした空間で桜を楽しめるわたしのおススメスポット。両岸に並んだたくさんの桜と高くそびえるタワーマンションの組み合わせが大崎らしい景色です。

穏やかな日差しの中で満開の桜を楽しむのも一興。風の強い日に花吹雪に視界が遮られるのも一興です。テレビ中継でお馴染みの中目黒まではおよそ4km。散策にもちょうど良い距離です。ライトアップの夜桜見物で川沿いを歩くにもいい季節になりました。

キャンディーズの「春一番」を口ずさみながら、足を延ばしてみませんか。

大崎ゆうゆうプラザ 豊田昌彦



足立区、葛飾区の桜の名所はどちらも都営公園の舎人公園と水元公園です。

舎人公園の桜は千本桜まつりが有名です。水元公園はしょうぶなどが有名ですが、土手の道路沿いに堤通り、水元さくら堤などがあり、花見などしている方も多く見かけます。

デイサービスの外出などでこの季節はいろいろなデイサービスの車を見ることが出来ます。

あとは足立区から葛飾区につながる葛西用水親水水路、曳舟親水公園など約5キロ近く歩いて運動しながら桜を觀賞できます

東京高齢協のぞみ 鈴木正史

私が住む街には桜並木が美しい川が流れている。

普段は犬の散歩をしたりジョギングをしたりする人をちらほら見かける程度だ。

春になり桜が咲くと閑散としていたのがウソみたいに賑わいます。昼も夜も花見客でいっぱい。キレイな桜を見ながら談笑している団体を横目に私は反対の岸に向かい、そこからさらに一本奥の道に入っていく。見事に咲いている桜の周りには人がいない。満開の桜を独り占めすることができる。

あまり知られたくない「わたしの一押し桜の名所」である。



中落合地域交流館 土屋彰子

山吹町地域交流館から報告とお知らせ



「みどりのカーテンプロジェクト」において『ゼロカーボンシティ新宿特別賞』を2年連続で受賞しました。

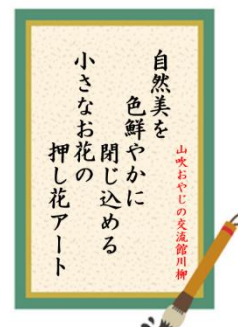
表彰式には館長が出席し、吉住区長と記念撮影を行いました。

また、当館の利用者の庄野一さんも「省エネ賞」を受賞されました。



春ですね。冬の間じっとしていた草花が、息を吹いてきました。

当館では、男性利用者をボランティア講師として、4月より「押し花アート教室」を始めます。たくさんの方に、季節を感じていただきたいと思っています。



東京高齢協介護福祉事業所		
東京高齢協	のぞみ	03-3886-3200
東京高齢協	世田谷訪問介護 青い空	03-5426-6831
東京高齢協	ふじみ	03-6905-7858
東京高齢協	国立地域センター ふぁみり〜・さぽーと	042-577-0399
東京高齢協	町田地域センター	042-789-5303
東京高齢協	ひなた	03-3577-2800

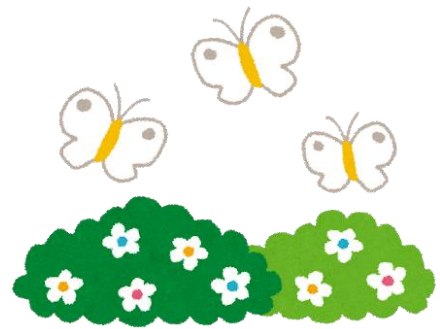
東京高齢協指定管理者受託施設		
高田馬場シニア活動館		03-3362-4560
信濃町シニア活動館		03-5369-6737
早稲田南町地域交流館		03-3208-2552
新宿地域交流館		03-3341-8955
山吹町地域交流館		03-3269-6189
上落合地域交流館		03-3360-1414
中落合地域交流館		03-3952-7163
練馬高野台敬老館		03-3996-5135
大崎ゆうゆうプラザ		03-5719-5322

入会案内

生活協同組合・東京高齢協は「最期まで自分らしく輝いて生きたい」の思いを実現する、ささえあいの協同組合です。ぜひ、東京高齢協の活動と一緒に参加しませんか？本部にご連絡ください！

①所定の加入申込書に必要事項を記入してご提出して下さい。

②出資金（1,000円/1口）を1口以上お預けいただきます。



地域・活動グループからのお知らせ

いよよ華やぐ倶楽部	03-5904-9011（本部）	4/24(水) 「ハンカチの木を見る会」 11:00 小石川植物園正門前集合 5/30(木) 「夏に向けてのおしゃれ講座」 14:00~ 新宿地域交流館
版の会	03-5904-9011（本部）	お問合せ下さい
練馬かんらんの会	090-2661-0991（本多）	4/6(土) 石神井公園でお花見
東京フロイデ合唱団 （関係団体）	03-5940-0731	毎週火曜日18:30~20:045 豊島区民センター多目的ホール お問合せ下さい
ふじみサロン	03-6905-7858	お問合せ下さい
サロン木曽の里	042-789-5303	町田市本町田2507-7 八-14
こめカフェ	03-5426-6831（青い空）	お問合せ下さい

東京高齢協ニュース
2024年・春号
 4月10日発行（通算199号）

生活協同組合・東京高齢協
 理事長 庭野吉也

〒170-0005豊島区南大塚3-43-12
 Tell 03-5904-9011
 Fax 03-5904-9012
 Mail info@t-koureikyuu.or.jp
 URL http://t-koureikyuu.or.jp/

編集後記 久しぶりに桜の開花を待つ春だった。4月に満開を迎えるのは何年振りだろう。桜を待っている間につつじが膨らみ始めている。長い冬の間に芽吹きをまっていた植物は、一斉に主張し始めてきた。翻ってわたしたちは、どうだろう。「おもいつき政策」や「増税めがね」と揶揄されても、「丁寧にご説明」してすべて閣議決定で国を動かされていることに、いつまで耐えていなければいけないのだろうか。6月からは所得税定額減税が始まる。これも防衛費増税の目くらましだということを、わたしたちはすっかり忘れていた。「人の噂も七十五日」と高を括弧している政治家に、春を待つ植物のように一斉に声を上げていく時がきているのでは。